

B. 各支部から

石川県小児保健協会の活動状況

石川県小児保健協会支部長
金沢大学子どものこころの発達研究センター
小 泉 晶 一

発足した当時は、北陸小児保健協会として、石川県、富山県、福井県の3県の会員によって構成されていたが、いつの頃か各県単位の組織替えが行われ現在に到っている。当初より、兼松謙三先生(小児科医)が理事長としてリーダーシップを発揮され、佐藤 保先生(小児科医)、右田 俊先生(小児科医)のお二人が学会運営や事務局担当としてまさに献身的に協会をバックアップしてこられた。特に兼松先生は石川県医師会会長を数期にわたって務められた。今日の本協会と医師会や行政との太いパイプは氏の尽力の賜物である。お三方とも名誉会員に推挙されている。

本協会の現在の会員数は296名であり、職種別では、医師41.6%、保健師26.4%、歯科医師5.4%、保育士5.1%、助産師3.4%、看護教諭3.4%、栄養士3.0%、看護師2.4%、養護教諭2.4%、その他7.1%(保育園園長、言語聴覚士、臨床心理士、作業療法士、臨床検査技師、教員、指導員、学生など)となっている。これらすべての分野から役員を推薦していただき理事会を構成しているが、加えて、石川県健康福祉部、金沢大学および金沢医科大学小児科、保健学科、公衆衛生学、看護大学などからも理事が選ばれている。事務局は、関 秀俊先生(小児科医)が事務局長を務め、津田朗子先生(看護師、保健学科)と行政職の数人が事務局を支えている。

年1回、9月初旬の週末午後で開催される「石川県小児保健学会」が最大の事業であり、毎年、前述の各分野の代表が持ち回りで当番会長を務めることとなっている。一般演題5~6題と、当番会長が推薦した招待講師による特別講演が行われる。講演のテーマは

石川県小児保健協会
〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1 医学部B棟-643
金沢大学子どものこころの発達研究センター

多岐にわたる。毎回約100名程度の参加者である。本学会は北陸小児保健協会の頃から続いており、佐藤、右田両氏の尽力によるところが大きい。平成5年には、「日本小児保健学会全国大会」が当時金沢医科大学小児科教授の四家正一郎先生のもとで開催されている。

毎年度末には機関誌「小児保健いしかわ」を発刊し、今年度は第23号を迎える。機関誌のタイトルは兼松初代理事長が揮毫している。サブタイトルは「子どもたちに明るい未来を」としている。本機関誌の編集には、事務局の関、津田両氏の尽力が非常に大きい。平成15年にISSN(国際標準逐次刊行物番号)を取得し、国会図書館に保存され、医学中央雑誌に登録されたので、小規模学会誌ながら掲載論文はインターネットで検索引用可能で、有用である。今後、保健学科や保育士などの発表の場として活用されれば幸甚である。

共催行事としては、「金沢子ども健康フォーラム」(金沢大学小児科が主催)、「禁煙フォーラム石川」、「子ども虐待防止ネットワーク石川」(NPO法人)、「石川県はしか0(ゼロ)作戦」(北陸の小児科医を中心としたメイリングリストネットワーク)などがある。後二者は日本小児保健協会実践活動助成を受賞した。

以上、石川県小児保健協会の近年の活動状況を概観した。石川県の特徴と一番の強みは、小児保健にかかわるほとんどすべての団体が協力し、行政機関もバックアップしている点であろうと思っている。今後もこれらの仲間が仲良く、「石川県小児保健学会」と「小児保健いしかわ」を通じて、細くとも長く継続して活動を維持することが大切と考えている。継続は力なり! ただ、学会構成員の状況も鑑み、年会費を1,500円としていることもあり、協会運営は事務局のボランティアの個人負担に迫るところが多く、その点を心配している。改善を迫られている。